

令和7年度農作物病虫害発生予察注意報第1号

令和7年(2025年)7月7日
山口県病虫害防除所

病虫害名 水稻の斑点米カメムシ類
(アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ、イネカメムシ等)

1 発生地域 県内全域

2 発生時期 7月～10月

3 注意報発令の根拠

- (1) 県内3か所の予察灯における6月1日～6月30日の斑点米カメムシ類の誘殺数は1,721頭(平年421.5頭)で平年に比べ多く、特に下旬に急増している(表、図)。
- (2) 6月下旬に行った極早期栽培地域のイネ科雑草地20回すくい取り調査では、1ほ場当たり虫数286.4頭(平年81.2頭)で平年に比べ多かった。
- (3) 1か月予報(7月3日福岡管区気象台発表)によると、向こう1か月は気温が高く、曇りや雨の日が少ない見込みで、斑点米カメムシ類の活動に好適な条件が予測されている。

4 防除対策

- (1) 畦畔、休耕田等の草刈り
斑点米カメムシ類が増えるのを避けるため、出穂2週間前までに畦畔等の草刈りを実施する。それ以降もイネ科雑草(エノコログサ、メヒシバ、ヒエ等)の穂が出ないように管理する。
- (2) 薬剤防除
 - ア 防除時期(液剤等)：穂揃期と穂揃期7日後
ただし、イネカメムシの発生が認められるほ場では、出穂期と出穂期7日後
 - イ 粒剤で防除を行う場合は、液剤より3～4日早く散布する。
 - ウ 防除後、ほ場での発生状況を確認し、斑点米カメムシ類の発生が認められる場合は、さらに7日後の追加防除を実施する。
 - エ 防除薬剤は、山口県農作物病虫害・雑草防除指導基準による。
<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22316.html>

5 防除上注意すべき事項

- (1) 出穂期にイネカメムシによる集中的な吸汁を受けると、不稔穂が発生し収量に影響を与えるため、周囲より出穂が早いほ場は特に発生に注意する。
- (2) 水稻出穂後の草刈りは、斑点米カメムシ類の水稻への移動を促し、加害を助長するので避ける。
- (3) 防除時期に畦畔に出穂したイネ科雑草がある場合は、畦畔も含めて薬剤防除を実施する。
- (4) 斑点米カメムシ類は広範囲に移動するので、広域で一斉防除すると効果が高い。
- (5) 粒剤は、クモヘリカメムシ、イネカメムシ等の大型カメムシに対しては効果が劣るため、防除後の効果をよく確認する。
- (6) 防除にあたっては、適正な薬剤散布作業の実施、農薬使用基準の遵守、ミツバチ被害軽減対策など安全で効果的な防除に努める。

(参考) 用語解説

出穂期とは、出穂すると思われる全茎数の40～50%が出穂した日

穂揃期とは、出穂すると思われる全茎数の80～90%が出穂した日

表 予察灯における斑点米カメムシ類主要5種の誘殺数(6月1日～6月30日、県内3か所合計)

年度	大型種			小型種		合計
	クモヘリカメムシ	イネカメムシ	ミナミアオカメムシ	アカシジカスミカメ	アカヒゲホソドリカスミカメ	
令和7年	29	12	27	1250	403	1721
平年	7.4	0.3	2.1	334.6	77.1	421.5

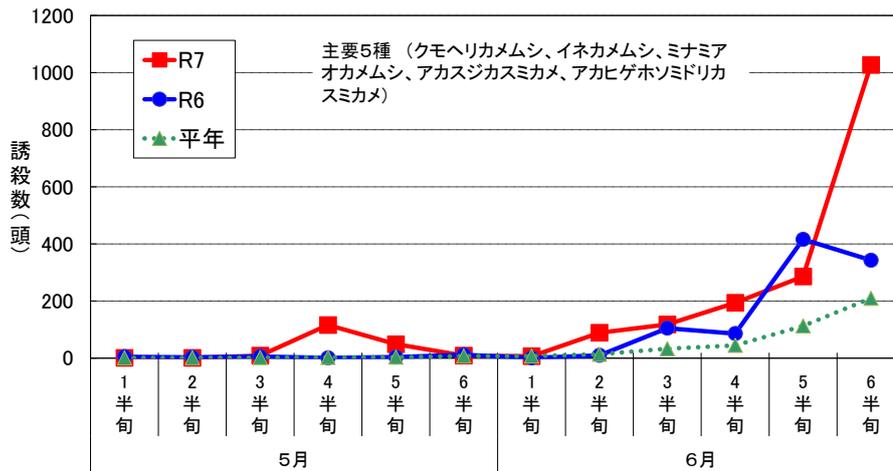


図 予察灯における斑点米カメムシ類主要5種の誘殺数(県内3か所合計)



写真1 クモヘリカメムシ成虫
(体長 15～17mm)



写真2 アカシジカスミカメ成虫
(体長 5～6mm)



写真3 イネカメムシ成虫
(体長 16mm 程度)



写真4 斑点米